

デジタルトランシーバーに伴い中央分団共有仕様について

平成 25 年 1 月 2 日

中央分団長

2013.2.14より本署はデジタル化となり、今まで受信していたアナログの「市町村波」は終了します。消防団においては、消防団専用のデジタルトランシーバーが各部に支給されました。

今後のデジタル化や支給されたデジタルトランシーバーについてのよくある質問

Q：本署（消防署）のデジタル化に伴い、災害や火災発生はどのように連絡がくるのか？

A：携帯メールか匝瑳市防災無線の放送で連絡されます。（メールは再登録をする予定）

Q：支給されたデジタルトランシーバーで本署（消防署）のデジタル市町村波は聞けますか？

A：聞けません。支給されたのは、いわゆるトランシーバーです。**無線機ではありません。**

Q：火災出動時での、火災の規模（詳細）や進行状況は、今まで通り団員にも伝わりますか？

A：現着するまで一切分かりません。たとえ誤報や鎮火していても、本署無線を聞けませんので現着するまで分かりません。

Q：「デジタルは災害に不向き」「大きな建物や山などの障害物に弱い」と言われていますが…

A：送受信のテスト結果、ひと山を隔てると「匝瑳高校付近⇄中央 1 部団庫付近」の約 1 km程度でもダメ。

また、室内からの使用はダメ。（室内からだとも 200m程度の距離でもダメ）

街中（国道 126 号）でのテストでは「市役所⇄中央 2 部団庫付近」まで通話可能「中央 2 部付近⇄中央 6 部団庫付近」までなら通話可能。中央地区内の約 60%は網羅できるが、通話可能距離は約 1～2 km程度です。

各部においては通信可能な部と連携を図り、情報の橋渡し（中継）などで補うしかない…。

Q：消防団としてのデジタルトランシーバーの使用方法（活用方法）は？

A：現在、匝瑳市消防団としての使用方法（マニュアル）は定められておりません。

◆ 中央分団として、今後のデジタルトランシーバー使用方法について（現状）◆

デジタルトランシーバー使用については、**消防団としての統一の使用方法が決まるまでは使用しません。**

※各分団・各部が災害現場で好き勝手に使用すれば、ただ単に混乱するだけ。

また、素早く指示や情報を全団員に伝えることに関しても、団員の保有率が約 9 割以上あるアナログ無線機（受令機）ならば、1 度の送信でほぼ全団員（81 名）に通達（通話）が可能。

今回支給されたデジタルトランシーバーは各部 1 台、保有率は 1 割…

その他に、山の中では使えない…。室内でも使えない…。

以上の理由から**災害出動や現場活動での交信は、今まで通り中央分団のアナログ無線を使用する。**

デジタルトランシーバーの使用は、団本部からの指示に従い使用する。